

[成果情報名]ブドウ黒とう病に効果の高い防除体系

[要約]ブドウ黒とう病は、休眠期にデランフロアブルを散布し、展葉2～3枚から有効薬剤を散布する体系で効率的に防除できる。

[担当]果樹試・環境部・病害虫科・綿打享子

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年、本県の欧州系品種では黒とう病が増加傾向にある。特に栽培面積が増加している「シャインマスカット」については、黒とう病に弱いため、防除対策が求められている。そこで、防除時期と有効薬剤を明らかにし、防除体系を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1．休眠期防除薬剤のデランフロアブル200倍は、対照のベンレート水和剤200倍と比較し黒とう病の防除効果が高い(図1)。
- 2．生育期防除は、展葉2～3枚期から開始すると展葉5～6枚期から開始するよりも防除効果が高い(表1)。
- 3．生育期防除薬剤はオーソサイド水和剤80 800倍、キノンドー水和剤40 800倍、ドーシャスフロアブル2000倍、アフエットフロアブル2000倍の防除効果が高い(表2)。
- 4．休眠期にデランフロアブル200倍を散布し、展葉2～3枚期から定期的に有効薬剤を組み入れた防除体系はブドウ黒とう病を効率的に防除できる(表3)。

[成果の活用上の留意点]

- 1．ブドウ黒とう病はいったん発病すると防除が困難となるため、予防散布に重点をおく。
- 2．罹病した結果母枝や葉および新梢は伝染源となるため、園外に持ち出し処分する。
- 3．2014年度「シャインマスカット」の防除暦は、休眠期デランフロアブル200倍、展葉初期オンリーワンフロアブル2000倍、展葉5～6枚ドーシャスフロアブル2000倍、展葉9～10枚オーソサイド水和剤80 800倍である。
- 4．上記の防除体系は、主要病害のべと病、晩腐病にも有効である。

[期待される効果]

- 1．ブドウ黒とう病を含めた防除体系により、県産ブドウの安定生産に寄与できる。

[具体的データ]

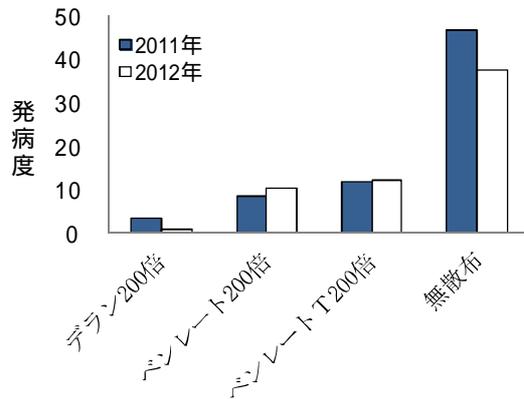


図1 ブドウ黒とう病に対する各種休眠期薬剤の防除効果

表1 ブドウ黒とう病の防除時期と防除効果 (2012年)

散布時期	発病葉率 (%)	発病度	防除価 ^z
休眠期のみ	17.7	4.7	86.1
休眠期 + 展葉2~3枚	7.2	2.3	93.1
休眠期 + 展葉5~6枚	19.4	5.8	82.8 ^y
無散布	49.5	33.7	

試験場所：笛吹市(接種試験)

供試品種：シャインマスカット 4年生

休眠期散布月日：4/19 デランF200倍

生育期散布月日：5/7 (展葉2~3枚) 5/17 (展葉5~6枚) ワリ-ワフ2000倍

調査月日：6/6

^z 数値が100に近いほど防除効果が高いことを示す (表1,2共通)

^y 5/17散布時に発病あり

表2 ブドウ黒とう病に対する各種生育期薬剤の防除効果(2012年)

供試薬剤	希釈倍数	試験			試験			薬害
		発病葉率 (%)	発病度	防除価	発病葉率 (%)	発病度	防除価	
オーソサイド水和剤80	800	5.3	1.1	86.6	8.2	2.9	92.8	-
キノンドー水和剤40	800				11.0	4.9	87.8	± ^z
ドーシャスフロアブル	2000				14.0	7.4	81.6	-
アフエットフロアブル	2000	4.7	0.9	89.1	27.0	15.0	62.7	-
無散布	-	33.7	8.2		58.8	40.2		

試験 : 試験場所：笛吹市(接種試験) 供試品種：シャインマスカット6年生 薬剤散布月日：4/25、5/1、10、17、29
調査月日：6/6 : 未実施

試験 : 試験場所：甲州市(接種試験) 供試品種：シャインマスカット7年生 薬剤散布月日：4/25、5/1
調査月日：5/11 ^z葉に小穴があいたが、生育への影響はなかった。

表3 体系防除によるブドウ黒とう病の防除効果(2013年)

試験区	散布時期と薬剤				発病状況(6/27)	
	休眠期 (発芽前 4/9)	展葉2~3枚 (4/26)	展葉5~6枚(5/7)	展葉9~10枚 (5/21)	発病葉率 (%)	発病果房率 (%)
体系	デランF 200倍	オーソサイド WP 800倍	ドーシャスF 2000倍	オーソサイド WP 800倍	0	0
体系	デランF 200倍	キノンドー WP 800倍	ドーシャスF 2000倍	オーソサイド WP 800倍	0	0
慣行 (2013年防除暦)	デランF 200倍	ワリ-ワフ 2000倍	アリエッティ WP 800倍	オーソサイド WP 800倍	0	0
無散布	-	-	-	-	7.5	37.5

試験場所：甲州市(接種試験) 供試品種：シャインマスカット 8年生
落花期は全面にジマンダ化水和剤1000倍を散布した。

[その他]

研究課題名：ブドウ及び核果類等の病害虫薬剤防除法の改善

予算区分：県単

研究期間：2011~2013年度

研究担当者：綿打享子、村上芳照、内田一秀、功刀幸博